

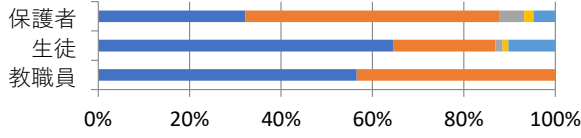
# 令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

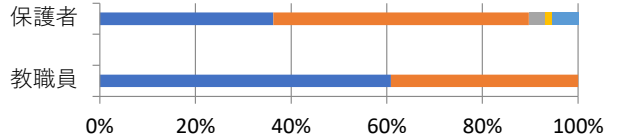
### 1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



### 2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

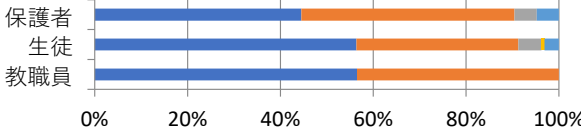


「心かがやけ月間」をはじめ、心の教育の実践を学校全体として行ってきたことにより、保護者の「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の割合が昨年度と比較して減っている。しかし、児童や保護者の中の「わからない」の割合が非常に増えていることを真摯に受け止めて、道徳や人権学習の学習内容を深め、保護者への啓発を積極的に行い、一人一人を大切にする指導をさらに推進していく。

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

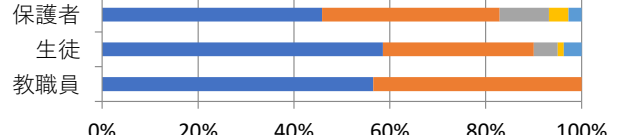
### 3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



### 4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

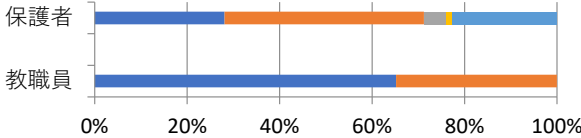


授業力向上については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が高い。昨年度と比較すると児童の割合が若干増えていることから、授業改善によって児童の困り感も減少してきている。また、タブレット端末活用については、教職員・保護者・児童とも高い割合となっている。授業での活用場面が多岐にわたるようになっているが、学習での利活用の在り方については保護者への啓発がさらに必要である。

## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

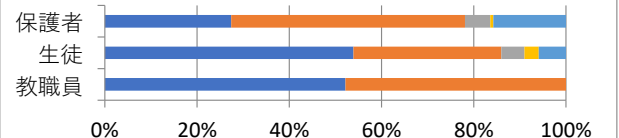
### 5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



### 6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



昨年度同様、学校の支援体制・共生社会を担う人材の育成ともに、教職員と児童の「そう思う」と回答した割合は高い。しかし、保護者と教職員の「そう思う」と回答した割合の差は大きい。児童も含めて校内では十分に共有できているが、保護者の「わからない」という回答が多いことから十分に伝わっていないという課題が考えられる。学校での実践を特別支援教育コーディネーターや研究主任を中心にさらに保護者への啓発の在り方を考える必要がある。

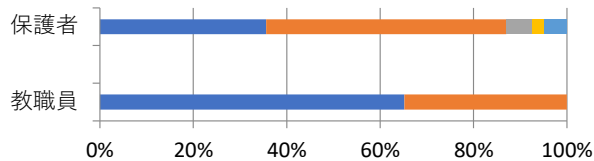
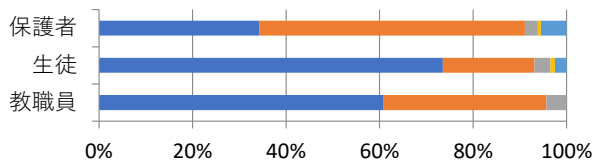
④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止

8 家庭や地域との連携協力

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



安全と事故防止については、特に児童の「そう思う」と回答した割合が昨年度より大幅に増えている。「自分の命は自分で守る」という意識の高まりが感じられる。一方で保護者も児童も教職員も「そう思わない」と思っている。更なる事故防止に努めたい。また、家庭や地域との連携協力については、教職員の「そう思う」と回答した割合は増えたが、保護者は昨年度と変わらない。積極的に家庭、地域との連携を進めていく必要がある。

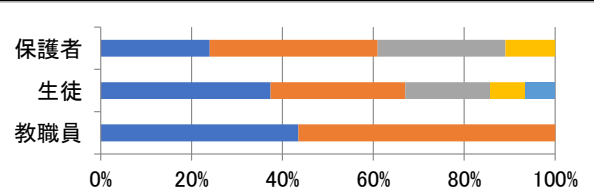
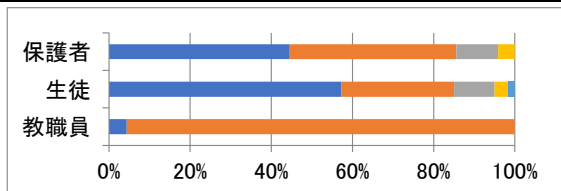
④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

9 学校独自1

10 学校独自2

子どもは、早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身についていると思いますか。

子どもは、読書や暗唱に意欲的に取り組んでいると思いますか。

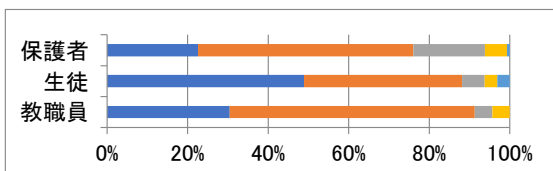


早寝、早起き、朝ごはんの習慣について、保護者、児童は「そう思う」と感じている割合が多いが、教職員はとても少ない。特に、身につけていない家庭の児童の様子を注視し、家庭と連携を図りながら意識づけをしていく必要がある。また、読書や暗唱については、教職員は10割「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」だが、保護者、児童は6~7割と少ない。児童への指導とともに親子読書などの取組を継続していく必要がある。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

11 学校独自3

子どもは、三つの宝（うつくしくまわりを・えがおであいさつ・きちんとくつならべ）ができていると思いますか。



昨年度同様、児童と教職員については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合が9割を超えている。保護者については8割に満たない。また、半数の児童は「そう思う」と回答していることから、主体的に取り組んでいる児童が多いと思われる。今後、さらに児童のがんばりを地域や家庭にも積極的に伝え、啓発していく必要がある。

## 来年度の具体的な取組について

- ・学校、学級での具体的な取組を学校だより、学級通信や学校ホームページなどで保護者、地域の方に向けてわかりやすくこまめに発信していく。
- ・「確かな学力向上」を目指し、学習の振り返り指導と協働的な学びのための指導に力を入れて授業を行った。来年度も継続、発展させながら、更なる児童の学力向上に努めたい。
- ・「学校の支援体制」「共生社会を担う人材の育成」については、一人一人のよさを認め合える活動について発信し、特別支援教育に関する啓発を積極的に行っていく必要がある。
- ・「安全と事故防止」については、引き続き安全指導に取り組む。「家庭や地域との連携協力」については、学校の教育活動を学校ホームページで発信していることをさらに周知していく必要がある。
- ・本校の「三つの宝」の推進については、自分たちの学校は自分たちの力でよりよいものにしていくという意識を持たせ、自分だけでなくみんなのためにという相手意識を高めて取組を進めていきたい。

## 学校関係者評価

- ・元気がよく、先生とのコミュニケーションがよく図られていた。子どもたちが集中して授業を受けていて、成長を感じた。
- ・児童が興味を持って授業に臨んでいる様子が見られた。つまり、先生方が児童の興味をひく学習内容をいつも工夫しておられるのだなと感心している。
- ・「わからない」などの声を安心して発することのできる学びの雰囲気をもっと作ってほしい。
- ・タブレットは大きな変化である。先生方もモニターと黒板を両方使っていてすごいと思った。ICTは便利だがこれがすべてではない。アナログとの共存、デジタルへの対応力や選択能力も今後必要だと思う。
- ・保護者の意見を読ませてもらい、児童の居場所や成長が学校の中にきちんとあるということに安心した。子どもが変わることによって保護者の意識を変えることができると思う。学校での学びが家庭生活の中にも当たり前にある状況にできるといいのではないかと思う。
- ・児童はよくあいさつをしている。朝早く、登校班で元気に登校できていて、保護者のサポートもよく見受ける。
- ・創立150周年記念式典を通して学校の歴史を知る機会ができたことで、児童だけでなくPTAとしても盛り上がっていたように感じた。来年度以降もPTAとの連携を強化しながらよりよい学校づくりに努めてほしい。